

登録コード	EKH01900	開講年度	2026					
授業科目	教育実践実地研究Ⅰ					担当教員	谷塚 光典 他	
英文授業名	Field Study for Educational Practice 1					副担当	谷内 祐樹・伏木 久始	
単位数	3	講義期間	通年(集中)	曜日・時限	集中・不定期		履修学年	1年生
講義室				授業形態	実習	備考		
信大コンピテンシー	非該当							
(1)【授業の達成目標】	【授業で得られる「学位授与の方針」】					⇔	【授業の達成目標】	
26EAカリ, 25EAカリ, 24EAカリ								
教育の専門職としての学識・技能					⇔	教職基盤形成コースの学生は, 教師としての使命感・自覚を身につけるとともに, 子ども理解に基づく授業計画力, 授業分析力を身につけることができる。 高度教職開発コースの学生は, 拠点校の研究活動や学校運営に関与することを通して, 学校の実態及び課題を明確化し, 課題解決に向けた方略・方法を検討することができる。		
教育現場の諸課題の背景にある関係構造に気づく視点					⇔	教職基盤形成コースの学生は, 自らの課題について, 学校現場の実態を把握するとともに, その実態を児童生徒個人, クラス, 学校の視点から分析することができる。 高度教職開発コースの学生は, 自らの課題について, 学校現場の実態を把握するとともに, 実態に基づき目標設定, 課題解決に向けた方針・方法を検討することができる。		
社会の一員である教員として生きる意志と倫理観					⇔	教職基盤形成コースの学生は, 自らの研究課題を実践的に探究するとともに, 学級づくりや生徒指導, 学校運営について実践的に学ぶことができる。 高度教職開発コースの学生は, 自らの関心と勤務校の課題を基に明確化した研究課題を追究することを目指す。		
(2)授業の概要	本実習科目は, 8月～12月にかけて, 週1回8時間の実習を15週にわたり実施する。 実習生は, 配属校で授業を行うとともに, 学校行事, 校内研究会や職員会議等にも参加する。これにより, 授業と学校運営の双方の視点から自らの課題を追究する。さらには, 子どもの理解に基づき授業を展開する指導, 校内の多様な意見を踏まえながら学校が抱える課題の解決を図る協働的態度について, 実践的に検討する。 なお, 高度教職開発コースの学生は, 拠点校に勤務しながら, 「教育実践実地研究Ⅰ」を拠点校で行うため, 通常の勤務と実習による課題解決を区別して活動できるよう, 実習に位置づく実践については活動記録の作成により大学教員が時間と内容の管理を行う。この勤務と実習の整理と管理の方法については, 具体的には以下のような方法で行うものとする。 〔具体的な手続き〕 ○学生は週毎に活動記録を作成する。 ○月毎に, 記録に基づき大学院においてカンファレンスを実施する。 ○半期毎に実習報告を作成し, 中間的な指導を実施する。 ○年間の取組の展開を報告書にまとめ, 最終的な報告検討会を実施する。 担当教員が小学校・中学校での実務経験を活かして講義を行います。							
(3)授業計画	<教職基盤形成コース> 第1週～第5週 ○課題に基づいて児童・学校・地域の実態を把握することにより, 実践における実態把握の視点を身につける。 ○勤務校の研究活動・学校運営について自らの課題と関連させて実態を把握する。 第5週～第10週 ○課題について, 実態把握に基づき児童・学校レベルでの分析を検討することにより, 現状についてミクロ・マクロな視点から分析する力をつける。 ○勤務校の研究活動・学校運営について, その特徴と課題を分析することができる。 第11週～15週 ○課題に関する実態把握, 分析に基づき, 課題解決に向けた方針・方法・計画(プロセス)を検討することができる。 ○勤務校の研究活動・学校運営について, 課題解決に向けた方針・方法・計画(プロセス)を検討することができる。 <高度教職開発コース> 第1週～第5週 ○自己の課題についてクラス及び児童生徒の実態を把握することにより, 問題解決に向けてクラス・児童生徒レベルで実態を把握する視点を身につける。 ○授業参観を通して, 子どもの実態・特徴を理解する力を養う。 第5週～第10週 ○自己の課題について学校レベルの実態を把握することにより, マクロな視点での実態把握の視点を身につける。 ○授業参観を通して, 教材及び指導法から授業を分析する力を養う。 第11週～第15週 ○自己の課題に関する実態把握に基づき, 児童生徒・学校レベルで分析・検討する視点を身につける。 ○授業研究のテーマの決定および授業計画の立案を通して, 授業をデザインする力を養う。							
(4)成績評価の方法	○フィールドポートフォリオの作成状況:100% ○得点率による評価基準は次のとおりとする。 90%以上 秀, 89-80% 優, 79-70% 良, 69-60% 可, 59%以下 不可。							
(5)履修上の注意	○1年次に履修する「授業・学級づくりチーム演習」において自らの課題を明確化しておくこと。 ○1年次に「実践研究とリフレクションⅠ」及び「実践研究とリフレクションⅡ」と並行して履修する							

(5)履修上の注意	こと。 ○（公財）日本国際教育支援協会の学生教育研究災害傷害保険・同付帯賠償責任保険に加入すること。 ○履修に必要な経費（参加費・交通費・食費・文房具代・保険料等）は、学生の自己負担とする。
(6)質問,相談への対応および連絡先	○担当教員への質問・連絡方法は、各自担当教員と相談して決定すること。 なお、教育学部「開設授業科目一覧表・授業時間割表」記載の教員名簿を参照すること。
(7)成績評価の基準	「卓越している」：到達目標の①②両方について、多様なエビデンスに基づいて分析しており、多面的に考察を加えている。その分析・考察が、学生自らの課題追究及び拠点校の学校課題解決に大きく寄与している。 「かなり上である」：到達目標の①②のいずれかについて、多様なエビデンスに基づいて分析しており、多面的に考察を加えている。その分析・考察が、学生自らの課題追究及び拠点校の学校課題解決に寄与している。 「やや上にある」：到達目標の①②について、多様なエビデンスに基づいて分析しており、考察を加えている。その分析・考察が、学生自らの課題追究または拠点校の学校課題解決に寄与している。 「水準にある」：到達目標の①②について、エビデンスに基づいて分析しており、考察を加えている。その分析・考察が、学生自らの課題追究または拠点校の学校課題解決にある程度寄与している。
(8)事前事後学習の内容について	○実習にあたっては、自らの課題と拠点校の学校課題を常に意識し、実習内容とどのように関連するかをまとめておくこと。 ○自らの課題と拠点校の学校課題に関連する文献や情報を収集しておくこと。
【教科書】	○特に指定しない。
【参考書】	○授業の中で適宜紹介する。